

法学研究科 法学研究科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律理論特殊講義	商法第二特殊講義IA 今泉 恵子	2学期	1	2	1
		1年			
	商法第二特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	民事訴訟法第二特殊講義IA 小池 順一	1学期	1	2	2
		1年			
	民事訴訟法第二特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	刑法第二特殊講義A 山本 光英	2学期	1	2	3
		1年			
	刑事訴訟法第二特殊講義A 吉村 弘	1学期	1	2	4
		1年			
	刑事学第二特殊講義A 朴 元奎	1学期	1	2	5
		1年			
	社会法第二特殊講義IA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会法第二特殊講義IIA 津田 小百合	2学期	1	2	6
		1年			
	国際法第二特殊講義A 二宮 正人	2学期	1	2	7
		1年			
日本法制史第二特殊講義A 岡 邦信	1学期	1	2	8	
	1年				
法哲学第二特殊講義A 重松 博之	1学期	1	2	9	
	1年				
憲法第二特殊講義IA 植木 淳	2学期	1	2	10	
	1年				
憲法第二特殊講義IIA 休講	1学期	1	2		
	1年				
行政法第二特殊講義IA 岡本 博志	1学期	1	2	11	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律理論特殊講義	行政法第二特殊講義IIA	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第二特殊講義IA	1学期	1	2	12
	矢澤 久純	1年			
	民法第二特殊講義IIA	1学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第二特殊講義IIIA	1学期	1	2	
	休講	1年			
	民法第二特殊講義IVA	2学期	1	2	13
	小野 憲昭	1年			
行政法第二特殊講義IIIA	2学期	1	2		
休講	1年				
刑法第二特殊講義IIA	2学期	1	2		
休講	1年				
■法律実践特殊講義	商法第二特殊講義IB	1学期	1	2	14
	今泉 恵子	1年			
	商法第二特殊講義IIB	2学期	1	2	15
	高橋 衛	1年			
	民事訴訟法第二特殊講義IB	2学期	1	2	16
	小池 順一	1年			
	民事訴訟法第二特殊講義IIB	1学期	1	2	17
	中村 仁	1年			
	刑法第二特殊講義B	1学期	1	2	18
	山本 光英	1年			
刑事訴訟法第二特殊講義B	2学期	1	2	19	
吉村 弘	1年				
刑事学第二特殊講義B	2学期	1	2	20	
朴 元奎	1年				
社会法第二特殊講義IB	2学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律実践特殊講義	社会法第二特殊講義IIB 津田 小百合	2学期	1	2	21
		1年			
	国際法第二特殊講義B 二宮 正人	1学期	1	2	22
		1年			
	日本法制史第二特殊講義B 岡 邦信	2学期	1	2	23
		1年			
	法哲学第二特殊講義B 重松 博之	2学期	1	2	24
		1年			
	知的財産法第二特殊講義B 木村 友久	集中	1	2	25
		1年			
	法律実務第二特殊講義B 中村 仁 他	1学期	1	2	26
		1年			
	憲法第二特殊講義IB 植木 淳	1学期	1	2	27
		1年			
	憲法第二特殊講義IIB 休講	2学期	1	2	
		1年			
	行政法第二特殊講義IB 岡本 博志	2学期	1	2	28
		1年			
行政法第二特殊講義IIB 休講	1学期	1	2		
	1年				
民法第二特殊講義IB 矢澤 久純	1学期	1	2	29	
	1年				
民法第二特殊講義IIB 福本 忍	2学期	1	2	30	
	1年				
民法第二特殊講義IIIB 中山 布紗	2学期	1	2	31	
	1年				
民法第二特殊講義IVB 小野 憲昭	1学期	1	2	32	
	1年				
行政法第二特殊講義IIIB 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律実践特殊講義	刑法第二特殊講義IIB 大杉 一之	2学期	1	2	33
		1年			
■政策理論特殊講義	政治学第二特殊講義IA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治学第二特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	行政学第二特殊講義IA 森 裕亮	1学期	1	2	34
		1年			
	行政学第二特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第二特殊講義IA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第二特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治思想史第二特殊講義IA 中道 壽一	2学期	1	2	35
		1年			
	政治思想史第二特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治史第二特殊講義IA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治史第二特殊講義IIA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治史第二特殊講義IIIA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域研究第二特殊講義IA 三宅 博之	1学期	1	2	36
		1年			
	地域研究第二特殊講義IIA 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政策研究第二特殊講義IA 古賀 哲矢	2学期	1	2	37
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策理論特殊講義	政策研究第二特殊講義IIA 檀原 真二	1学期	1	2	38
		1年			
	政策研究第二特殊講義IIIA 狭間 直樹	2学期	1	2	39
		1年			
	政策研究第二特殊講義IVA 申 東愛	1学期	1	2	40
		1年			
	政策研究第二特殊講義VA 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政策研究第二特殊講義VIA 坂本 隆幸	1学期	1	2	41
		1年			
■政策基礎特殊講義	政治学第二特殊講義IB 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治学第二特殊講義IIB 濱本 真輔	2学期	1	2	42
		1年			
	行政学第二特殊講義IB 森 裕亮	2学期	1	2	43
		1年			
	行政学第二特殊講義IIB 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第二特殊講義IB 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際関係論第二特殊講義IIB 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治思想史第二特殊講義IB 中道 壽一	1学期	1	2	44
		1年			
政治思想史第二特殊講義IIB 休講	2学期	1	2		
	1年				
政治史第二特殊講義IB 休講	1学期	1	2		
	1年				
政治史第二特殊講義IIB 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		1年				
■政策基礎特殊講義	政治史第二特殊講義IIIB 休講	2学期	1	2	45	
	地域研究第二特殊講義IB 三宅 博之	1学期	1	2		
	地域研究第二特殊講義IIB 休講	1学期	1	2	46	
	政策研究第二特殊講義IB 古賀 哲矢	1学期	1	2		
	政策研究第二特殊講義IIB 楢原 真二	2学期	1	2	47	
	政策研究第二特殊講義IIIB 狭間 直樹	1学期	1	2		
	政策研究第二特殊講義IVB 申 東愛	2学期	1	2	49	
	政策研究第二特殊講義VB 横山 麻季子	2学期	1	2		
	政策研究第二特殊講義VIB 坂本 隆幸	2学期	1	2	51	
	政策応用第二特殊講義I 松尾 哲也	集中	1	2		
■政策応用特殊講義	政策応用第二特殊講義II 中園 哲	2学期	1	2	53	
	政策応用第二特殊講義III 古田 稔	1学期	1	2		
	政策応用第二特殊講義IV 大久保 裕文 他	集中	1	2	55	
	政策応用第二特殊講義V 休講	集中	1	2		
	■特別研究I	商法第二特別研究 今泉 恵子	1・2学期 (ペア)	1	4	56

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究I	民事訴訟法第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑法第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	57
	山本 光英	1年			
	刑事訴訟法第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	58
	吉村 弘	1年			
	刑事学第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	59
	朴 元奎	1年			
	社会法第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	国際法第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	60
	二宮 正人	1年			
	日本法制史第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	61
	岡 邦信	1年			
	政治学第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	行政学第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
	国際関係論第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	
	休講	1年			
政治思想史第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	62	
中道 壽一	1年				
政治史第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4		
休講	1年				
地域研究第二特別研究	1学期(ペア)	1	4	63	
三宅 博之	1年				
政策研究第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	64	
古賀 哲矢	1年				
政策研究第二特別研究	1・2学期(ペア)	1	4	65	
檜原 真二	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■特別研究I	政策研究第二特別研究 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	66
		1年			
	憲法第二特別研究 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	行政法第二特別研究 岡本 博志	1・2学期 (ペア)	1	4	67
	1年				
民法第二特別研究 小野 憲昭	1・2学期 (ペア)	1	4	68	
	1年				
法哲学第二特別研究 重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	69	
	1年				
■特別研究II	私法領域第二特別研究 小野 憲昭 他	1・2学期 (ペア)	1	4	70
		1年			
	公法領域第二特別研究 岡本 博志 他	1・2学期 (ペア)	1	4	71
		1年			
地域政策第二特別研究 中道 壽一 他	1・2学期 (ペア)	1	4	72	
	1年				
国際政策第二特別研究 三宅 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	73	
	1年				

商法第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

特に、最近の世界金融危機と現行の法制度との相互作用についても一緒に考えてみたい。

教科書 /Textbooks

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 セミの運営方針の説明。
興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。
(裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、また、入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める)。
- 第3回 1, 候補テーマを紹介し合う。
2, テーマへの切り込み方、
3, 調査・分析の方法や範囲(射程距離)、
4, 探してみるべき資料などについて、
お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)および報告順番を決定する。
- 第5回～第15回 各担当(グループ)による報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法についての基本的な論点について、報告者と討論するします。そのことにより、基本的な知識から重要な知識まで身につきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者と教材について話し合い、テーマを決めます。
- 2回から15回 履修者による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

少人数の授業なので、予習を欠かさないでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第二特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望する問題を対象として刑法学に関する諸問題を研究し、刑法学的論理的思考力及び推理力を涵養する。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生と相談の上決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび受講態度によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の研究テーマを決定し、基本的な知識を身に付けておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第二特殊講義A 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法に関する外国文献を用い、外国の状況を考察する。

教科書 /Textbooks

最初の時間に指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初に時間に触れたいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献講読
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 文献講読

成績評価の方法 /Assessment Method

読解力、内容把握・・・・・・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に分担部分の訳をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第二特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

Siegel, L. J. 2011. Criminology. 11th ed. Belmont, CA: Wadsworth/Thomson

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Francis T. Cullen, John Paul Wright & Krstie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory, Volume 15) New Brunswick: Transaction Publishers, 2006.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～14回 テキストの輪読。毎回分担当を決め、読み進めていきます。
15回 まとめ(レポート提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50% 日常の授業への取り組み・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事学第二特殊講義B」、「刑法第二特殊講義A・B」および「刑事訴訟法第二特殊講義A・B」とあわせて受講すれば、刑事法学の一層の理解に役立つでしょう。

履修上の注意 /Remarks

学部においてすでに「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定されたテキストについては、授業開始前には各自準備しておくこと。入手が困難な場合には、担当者に相談すること。

英文テキストを毎回相当量のペースで読み進めていくので、相当の事前の準備をして受講すること。

キーワード /Keywords

社会法第二特殊講義IIA 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講生の関心に合わせ各自テーマを設定する。
選んだテーマに沿って、各自資料収集等を行い、その位置づけや方向性などについて検討・討論の上、最終的には、簡単な研究発表をしてもらう。
研究者養成コースの科目であるので、受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない予定。
必要に応じ、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上、テーマに即した適切な参考書を適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
(受講生各自の関心のあるテーマを照らし合わせた上で、講義内容及び進行計画を立てる)
- 第2回～第6回：進行計画に沿って、各受講生の研究経過発表と参加者全員による討論
- 第7回：中間報告及び課題抽出
- 第8回～第14回：中間報告で析出された課題について、さらなる調査・研究発表と討論
- 第15回：最終報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
日常の授業への取り組み...70% 研究報告内容...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第二特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』(日本評論社・2006年)○
 芹田健太郎=薬師寺公夫=坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』(信山社・2008年)
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法
- 第3回 テーマ決定と研究対象判例の選定
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動(UPR, Treaty Bodyにおける報告制度等)】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用:自動執行力】
- 第7回 判例研究I①(精読:事実関係の明確化)
- 第8回 判例研究I②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第9回 判例研究I③(報告担当者による判例報告)
- 第10回 判例研究II①(精読:事実関係の明確化)
- 第11回 判例研究II②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第12回 判例研究II③(報告担当者による判例報告)
- 第13回 判例研究III①(精読:事実関係の明確化)
- 第14回 判例研究III②(精読:争点の整理,論点の抽出)
- 第15回 判例研究III③(報告担当者による判例報告)

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
 クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。
 まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決と一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】

日本法制史第二特殊講義A 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世の法の存在形態と法意識を探ることを目途とし、史料講読

教科書 /Textbooks

受講者を見て決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講者による史料輪読
- 2回 受講者による史料輪読
- 3回 受講者による史料輪読
- 4回 受講者による史料輪読
- 5回 受講者による史料輪読
- 6回 受講者による史料輪読
- 7回 受講者による史料輪読
- 8回 受講者による史料輪読
- 9回 受講者による史料輪読
- 10回 受講者による史料輪読
- 11回 受講者による史料輪読
- 12回 受講者による史料輪読
- 13回 受講者による史料輪読
- 14回 受講者による史料輪読
- 15回 受講者による史料輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

史料は事前に読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第二特殊講義A 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとしては、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者とも言うユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究-(下)』（木鐸社）の検討を暫定的に想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

憲法第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的には、憲法判例研究を行う。ただし、なるべく各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をしていただきたい。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ 「行政訴訟」

実効的行政救済という観点から行政訴訟について検討する。

講義においては、まず旧憲法下の行政裁判制度から現行憲法下の行政訴訟制度に至る沿革を概観し、

次いで現行法における行政訴訟の類型と問題点を検討する。さらに平成16年度の法改正を踏まえ、各訴訟類型の訴訟要件および本案審理過程における解釈論上の諸問題を順次検討する。

教科書 /Textbooks

橋本博之『要説行政訴訟』（2006年、弘文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也『改正行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）

小林久起『司法制度改革概説3 行政事件訴訟法』（2004年、商事法務）

園部逸夫・芝池義一編『改正行政事件訴訟法の理論と実務』（2006年、有斐閣）

日本弁護士連合会行政訴訟センター編『実務解説行政事件訴訟法』（2006年、青林書院）

小早川光郎編『改正行政事件訴訟法』（ジュリスト増刊、2005年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 行政訴訟制度の沿革
- 2回 行政訴訟制度の沿革（その2）
- 3回 行政事件訴訟法の改正
- 4回 行政事件訴訟の類型
- 5回 行政事件訴訟の類型（その2）
- 6回 抗告訴訟の種類
- 7回 取消訴訟の訴訟要件
- 8回 取消訴訟の訴訟要件（その2）
- 9回 取消訴訟の審理過程
- 10回 取消訴訟の審理過程（その2）
- 11回 取消訴訟の判決
- 12回 取消訴訟の判決（その2）
- 13回 取消訴訟以外の抗告訴訟
- 14回 当事者訴訟
- 15回 民衆訴訟と機関訴訟

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における参加状況（討論の状況を含む。）および報告の内容（各50％）による。
試験は行わない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する資料を読んでおくこと。

報告を求められた場合にはなるべく準備し、報告すること。

履修上の注意 /Remarks

学部における行政法の知識が必要である。少なくとも行政法総論を履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の購読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 文献購読
- 10回 文献購読
- 11回 文献購読
- 12回 文献購読
- 13回 文献購読
- 14回 文献購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語を読んでくる。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

ドイツ法

民法第二特殊講義IVA 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最高裁判例を素材としながら、これまで学部において培ってきた民法に対する知識や理解を深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。受講生から希望があれば、ドイツ民法またはフランス民法の基本的な文献を輪読しながら、わが国の民法上の問題点が、外国の判例や学説ではどのように解決されているのか、一緒に検討してみようとも思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告内容・報告担当者の決定
- 3回～4回 判例の読み方、研究の仕方の確認
- 5回～14回 研究報告・討論
- 15回 まとめ-研究成果の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義(演習)への取り組み・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジユメを用意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的な準備と、積極的な討論参加を受講生に求めます。

キーワード /Keywords

商法第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、証券業・銀行業・保険業・信託業といった企業分野で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例を選ぶにあたって、受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる
裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、
入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第3回 1, 候補テーマを紹介し合う。
2, テーマへの切り込み方、
3, 調査・分析の方法や範囲(射程距離)、
4, 探してみるべき資料などについて、
お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)および報告順番を決定する。
- 第5回~第15回 各担当者(グループ)による報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。
報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

諸外国の会社法制との比較分析を通じて我が国の会社法の理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

以下の文献を予定しています。

Reinier Kraakman et al., The Anatomy of Corporate Law, 2d. ed. (Oxford U.P.)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考となる日本語文献等については授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法についての重要な論点について判例・学説を調べます。問題点を調査する手法を学ぶことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 履修者とテーマを決定します。
- 2回から15回 履修者からの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自主的かつ積極的に予習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実際の民事訴訟は、実体法と手続法が交錯した世界であるが、具体的な訴訟事件を例に、民事訴訟の実務に関する基礎を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実務上問題となる事例や判例を材料として、民事訴訟法上の問題について検討する。

- 第1回 訴訟物とは何か
- 第2回 訴訟物と請求の趣旨、請求の原因の関係
- 第3回 訴訟物と既判力の関係
- 第4回 訴訟要件
- 第5回 訴えの利益、確認の利益
- 第6回 訴えの客観的併合
- 第7回 共同訴訟
- 第8回 補助参加、参加的効力
- 第9回 訴訟担当
- 第10回 既判力の基準時
- 第11回 既判力の主観的範囲
- 第12回 主張立証責任
- 第13回 弁論主義と釈明権
- 第14回 上訴審の構造
- 第15回 附帯控訴

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験のみ。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事訴訟法と実体法（特に民法）の知識は、講義の前提として必須であるから、各自学習すること。講義には六法を持参すること。授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第二特殊講義B 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の重要問題を検討し、基礎的知識を確認する。ついで、判例を検討することで、法的・論理的思考力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の知識・能力に応じて、受講者と相談しつつ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび平常点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法総論」「刑法各論」の復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱意をもって、学ぼうとする姿勢が大切。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第二特殊講義B 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法に関する外国文献を用い、外国の状況を考察します。

教科書 /Textbooks

最初の時間に指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に触れたいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献講読
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 文献講読

成績評価の方法 /Assessment Method

読解力、内容把握・・・・・・・・１００％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に分担部分の訳をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第二特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑事学方法論」をテーマとして、アメリカ犯罪学・刑事司法政策における調査研究方法論の基礎を学びます。調査研究方法論に関する代表的な基本書を読み、実証研究を実行しうる基礎的な知識および実証研究を批判的に分析しうる能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac).(4th ed.), Wadsworth Publishing, 2004.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Earl E. Babbie, The Practice of Social Resarch, (11 ed.) , Wadsworth Publishing, 2006.
 ○Jon L. Proctor & Diane M. Badzinski, Introductory Statistics for Criminal Justice and Criminology. Prentice Hall, 2002.
 ○E.バビー著 (渡邊聡子監訳) 『社会調査法 1 基礎と準備編』 (培風館、2003年)
 ○E.バビー著 (渡邊聡子監訳) 『社会調査法 2 実施と分析編』 (培風館、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
 2回～14回 テキストの輪読。毎回分担を決め、読み進めていきます。
 15回 まとめ (レポート提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50% 日常の授業への取り組み・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

刑事法学を一層深く理解したい場合は、「刑事学第二特殊講義A」「刑法第二特殊講義A・B」および「刑事訴訟法第二特殊講義A・B」の受講をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

学部においてすでに「社会学」、「社会調査法」、「統計学」を履修している場合は効果的な学習ができます。

参考書指定のバビー『社会調査法1・2』は副教材として必読文献ですので、授業開始前には必ず準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカ犯罪学の調査研究の実例を数多く参照する一方で、受講生にはいろいろな課題を与えながら日本のデータにひきつけて調査技法を学んでいくという方針です。

キーワード /Keywords

社会法第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、その代表的な文献を収集・選択し、受講者全員で輪読・討論を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない予定。
必要に応じ、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上、各テーマに応じた適切な参考書等を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

複数の論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①に関する文献の講読・討論(1)
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②に関する文献の講読・討論(1)
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③に関する文献の講読・討論(1)
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。
日常の授業への取り組み...70% 報告内容...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法第二特殊講義B 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。
今回は、とくに国際司法裁判所の組織や活動と関連する国連憲章の条項について取り上げようと考えています。

教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田岡良一『国際連合憲章の研究』(有斐閣, 1949年) ○
藤田久一『国連法』(東京大学出版会, 1998年) ○
なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 United Nations, Repertory of Practice of the United Nationsの利用の仕方
- 第3回 国際司法裁判所の組織構造
- 第4回 国際司法裁判所の機能①: 判決 (Judgement)
- 第5回 国際司法裁判所の機能②: 勧告的意見(Advisory Opinion)
- 第6回 国連の実行の検討 国連憲章第92条① Bruno Simma
- 第7回 国連の実行の検討 国連憲章第92条② UN Reprtory
- 第8回 国連の実行の検討 国連憲章第93条① Bruno Simma
- 第9回 国連の実行の検討 国連憲章第93条② UN Reprtory
- 第10回 国連の実行の検討 国連憲章第94条① Bruno Simma
- 第11回 国連の実行の検討 国連憲章第94条② UN Reprtory
- 第12回 国連の実行の検討 国連憲章第95条① Bruno Simma
- 第13回 国連の実行の検討 国連憲章第95条② UN Reprtory
- 第14回 国連の実行の検討 国連憲章第96条① Bruno Simma
- 第15回 国連の実行の検討 国連憲章第96条② UN Reprtory

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
クラスへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ある程度の英語の力が必要となります。1週間に10ページ程度の資料を読んでいくため、クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められることとなります。

履修上の注意 /Remarks

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組み立てにも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。
まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国連憲章の条文を日本語と英語で比較検討してみたことがありますか。語句(単語)どうしの相関関係を理解しておく、国連に関する英語の資料を読むのが少しは楽になりますよ。また国連憲章の正文には、英語のほかに、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語で書かれたものがあります(あとアラビア語も公用語にはなっています)ので、いかがですか。

キーワード /Keywords

【国際司法裁判所 (ICJ)】 【国連憲章】 【国際司法裁判所規程】 【判決】 【拘束力】 【履行と執行】 【勧告的意見】 【法律問題】 【要請できる機関】

日本法制史第二特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前近代の日本の法について史料講読

教科書 /Textbooks

受講者をみて決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講者による史料の輪読
- 2回 受講者による史料の輪読
- 3回 受講者による史料の輪読
- 4回 受講者による史料の輪読
- 5回 受講者による史料の輪読
- 6回 受講者による史料の輪読
- 7回 受講者による史料の輪読
- 8回 受講者による史料の輪読
- 9回 受講者による史料の輪読
- 10回 受講者による史料の輪読
- 11回 受講者による史料の輪読
- 12回 受講者による史料の輪読
- 13回 受講者による史料の輪読
- 14回 受講者による史料の輪読
- 15回 受講者による史料の輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

史料は事前に読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第二特殊講義B 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

教科書 /Textbooks

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ヘーゲル（上妻精他訳）『法の哲学（上巻）（下巻）』（岩波書店）またはユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論にかんする研究 -（上）』（木鐸社）のうち、いずれか一方の精読・検討なども、選択肢の一つとして考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に応じて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

知的財産法第二特殊講義B 【昼】

担当者名 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法第二特殊講義Bは「思想または感情の創作物に関わるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する著作権法・不正競争防止法を重点的に扱う。

教科書 /Textbooks

最高裁判所のホームページ上に配置されている判決文を利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

半田正夫著「著作権法概説」一粒社
作花文雄「詳解著作権法」ぎょうせい
斎藤博・半田正夫編「著作権判例百選(別冊ジュリスト)」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要、各国の著作権制度
2. 著作権の保護客体I～著作物の定義と種類、二次的著作物および編集著作物
3. 著作権の保護客体II～プログラムの著作物、データベースの著作物
4. 著作権の保護客体III～キャラクター、タイプフェイス等
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権、著作者の死後の扱い
7. 著作権(著作財産権)I～著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権
8. 著作権(著作財産権)II～公衆送信権、その他の著作財産権
9. 著作権(著作財産権)III～著作権の制限、特に引用の考え方
10. 著作権侵害I～要件、依拠及び類似性等の判断
 11. 著作権侵害II～著作権侵害の効果、権利の用尽等
 12. 著作権侵害III～みなし侵害
 13. 著作隣接権～概論、実演家の権利、放送事業者の権利
パブリシティの権利
 14. 商標登録要件(実体的要件)と商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利
 15. まとめ
 16. 学年末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りは最終判例評訳レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料を利用して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab

キーワード /Keywords

知的財産 著作権 著作者人格権 著作隣接権 不正競争行為

法律実務第二特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師, 阿野 寛之 / 北方キャンパス 非常勤講師
奥田 克彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事事実認定をめぐる諸問題 (担当 弁護士阿野寛之)
- ② 法律相談の実務 (弁護士奥田克彦)
- ③ マンションの法律問題 (弁護士中村仁)

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 購読を要しない。
木谷明 (編著) 「刑事事実認定の基本問題・第2版」
石井一正 「刑事事実認定入門・第2版」
植村立郎 「実践的刑事事実認定と状況証拠」
- ②, ③については講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事事実認定をめぐる諸問題
第1回 刑事事件における事実認定のあり方
第2回 目撃供述 (犯人識別供述) の信用性
第3回 状況証拠による事実認定
第4回 刑事裁判における「自白」
第5回 違法収集証拠排除法則
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置 (法律相談は入り口である)。
第2回 典型的な民事事件の相談事案 (具体的事件に即し)
第3回 家事事件 (夫婦関係・相続問題) 相談事案 (同上)
第4回 交通事故・刑事事件の法律相談 (同上)
第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ マンションをめぐる法律問題
第1回 区分所有建物とは何か
第2回 専有部分と共用部分
第3回 管理組合
第4回 管理者制度
第5回 管理者の権限

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記①は刑事法, 上記②, ③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから, 各自, 学部で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的には、憲法判例研究を行う。ただし、なるべく各自の研究テーマに関連のある判例・法制度・法律文献について報告をしていただきたい。この講義が各自の研究にとって有意義なものとなるためにも、十分に問題を掘り下げた報告を期待する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ「情報公開法」

情報公開法制（情報公開法および情報公開条例）の仕組みについて検討し、併せて情報公開に関する判例を検討することを通じて情報公開法制についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。資料は複写して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（1999年、ぎょうせい）

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説（第4版）』（2008年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報公開法の基本原理
- 3回 情報公開法の仕組み
- 4回 情報公開法の仕組み（その2）
- 5回 情報公開法の仕組み（その3）
- 6回 情報公開法改正の動向
- 7回 情報公開法改正の動向（その2）
- 8回 情報公開条例の基本原理
- 9回 情報公開条例の仕組み
- 10回 情報公開条例の仕組み（その2）
- 11回 情報公開に関する判例の検討
- 12回 情報公開に関する判例の検討（その2）
- 13回 情報公開に関する判例の検討（その3）
- 14回 情報公開に関する判例の検討（その4）
- 15回 情報公開に関する判例の検討（その5）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況（討論の内容を含む。）と報告の内容による（各50％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布した資料は事前に読んでおくこと。

報告を求められた場合にはなるべく準備をして報告すること。

履修上の注意 /Remarks

憲法および行政法に関する知識が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ法学の成果に触れるために、ドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。昨今のドイツ語文献を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 文献購読
- 10回 文献購読
- 11回 文献購読
- 12回 文献購読
- 13回 文献購読
- 14回 文献購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語を読んでくる。ドイツ民法の条文は、各自、洋書取扱店で事前に購入しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

ドイツ法

民法第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス民法を比較ないし分析の対象としている論説）の検討を行う。学部時代に培った分析力を総動員して、質の高い報告ならびに論文執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版の小型六法は必携である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
 山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）
 山口俊夫『概説フランス法下』（東京大学出版会、2004年）
 ※その他については、適宜指導のなかで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス（受講人数等の事情により、授業の進め方・報告形式を変更する場合がある。）

※授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。

第2回：報告する学術論文の概要の報告（受講生全員）。採り上げる論文は、各院生の任意とする。ただし、財産法に関するものであり、かつ、フランス民法を主たる考察対象としているものを原則とする。この条件を満たすのであれば、論題は問わない。

第3回：教員による報告と質疑・応答。

第4回～第10回（予定）：報告（1回の授業で1人報告）および質疑・応答。

第11回～第14回（予定）：フランス民法（主として債務法分野）の原著を読む。ただし、受講院生がフランス語を読めない場合、他の内容を協議のうえで決定することがありうる。

第15回：まとめ

※最終授業終了時、論文（8,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとした論説とする。執筆要領その他の詳細は、初回ガイダンス時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...80%

※論文の内容...20%

【注意】論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告準備、論文執筆など、かなり負担の大きい授業である。わが国の民法は当然のこと、フランス民法にも強い関心がないと生産的な授業・研究にならない。事前に参考文献に目を通すなどしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス民法に関心を持とう！旧民法にも関心を持とう！

キーワード /Keywords

民法第二特殊講義IIIB 【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス法律文献を読み、読解力を身に付けながら法的思考を養うことを目的とする。
また、本講義は、テキストを読むだけにとどまらず、フランスの法制度と日本の法制度・法解釈（日本民法における原理・原則、法解釈）との異同について比較検討も行う。
今年度は、フランス債務法（契約法）に関する基礎的な文献を素材とする。

教科書 /Textbooks

SÉRIAUX(A), Manuel de droit des obligations, Paris, puf, 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

推薦辞書、文法書、文献ともに講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(上記テキストを選定した理由と受講に際しての注意事項を説明し、フランス民法典の構成や特徴などについて概説する。)
- 2回 読解①
- 3回 読解②
- 4回 読解③
- 5回 読解④
- 6回 読解⑤
- 7回 読解⑥
- 8回 読解⑦
- 9回 読解⑧
- 10回 読解⑨
- 11回 読解⑩
- 12回 読解⑪
- 13回 読解⑫
- 14回 読解⑬
- 15回 読解⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および平素の受講態度、発言等演習への貢献度、および訳出にかかる熱心さ…40%
学期末レポート…60% *なお無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中は、受講者をランダムに指名する(事前に訳出箇所を振り分けない)。指名された者は一文を音読した後、日本語の訳出を行うこと。
*輪読形式。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、フランス語を読めること(読もうとすること)が要求される。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法第二特殊講義III B 【昼】

キーワード /Keywords

民法第二特殊講義IVB 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部において培ってきた民法に関する知識や理解を一層深めるとともに、具体的な解釈論が展開できるようにすることを目的としています。

教科書 /Textbooks

使用しません。最高裁判例の解説をまとめたプリントを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告担当判例決定
- 3回～5回 判例研究の方法に関する必要事項の確認
- 6回～14回 担当判例の報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義(演習)への取り組み・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最高裁判例を分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告者は、報告用のレジユメを用意してください。報告者以外の方も討論に積極的に参加できるように準備しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法に関して近年議論されている重要な理論的問題を取り上げて考察を加える。刑法に関する知識を拡充し、刑法理論に関する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (レポート・レジユメを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

詳細は受講生と相談して決定する。基本的には、対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況及び理論状況を明らかにして、刑法理論を考察する。

履修上の注意 /Remarks

刑法 (刑法総論及び刑法各論) をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論

行政学第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。また、三位一体改革、市町村合併など、地方自治の分野のアップ・トゥ・デートな課題についても講義・議論する予定である。

教科書 /Textbooks

「ガバナンス」概念に関する外国文献

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義
- 第3回-14回 テキストの輪読と議論
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業準備は必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、亀嶋庸一『20世紀政治思想の内部と外部』（岩波書店）を用いて、シュミット、アレントの政治思想やナショナリズムの政治思想について考察したり、岡野加穂留・伊藤重行編『政治思想とデモクラシーの検証』（東信堂）を用いて、ホッブズ、スピノザ、ルソーなどに関する諸論文を読み、また、生松敬三『二十世紀思想狩獵』（岩波現代文庫）を用いて、現代思想の萌芽や1920年代の政治文化を考察し、受講生の論文作成と関係付けながら、議論した。今年度も、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』（藤原保信著作集第5巻 新評論、2006年）を挙げておきます。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

特に希望がなければ、以下の内容で進めます。

第1 - 5回 科学とイデオロギー

- M・ウェーバー・・・ 合理化のエートスと行方
- C・シュミット・・・ 自由主義批判の論理
- K・マンハイム・・・ イデオロギーとユートピア

第6 - 10回 政治哲学の再生

- J・ロールズ・・・ 正義の理論
- R・ドゥオーキン・・・ 平等の価値
- R・ノズィック・・・ 最小国家の擁護

第11 - 15回 モダンとポスト・モダン

- H・アレント・・・ 政治的空間の回復
- J・ハーバーマス・・・ コミュニケーション的行為の理論
- M・フーコー・・・ 規律 = 訓練権力のと抵抗

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取組... 20%
分担発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメ作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2005年から2014年までの10年間は、DESD（国連持続可能な開発のための教育の10年）と呼ばれている。授業担当者も北九州ESD協議会の一員として北九州におけるESDの前進に貢献しようとして心がけている。本授業では、ESDとはなにかを理論的実践的に理解してもらい、受講者自ら北九州の持続可能な開発のための一歩を踏み出してもらいたい。

教科書 /Textbooks

生方秀紀・神田房行・大森亨編『ESDをつくる～地域でひらく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐島群巳・小澤紀美子編『生涯学習としての環境教育』国土社、1994年、2524円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業を始めるにあたって～授業目標・計画・内容の説明
- 第2回 各自受講者の卒論の概要発表と討議～互いを知る
- 第3回 ESDとはじめ～担当教員の研究成果を通して
- 第4回 北九州ESD協議会に関する説明～具体的な取り組みを中心に
- 第5回 教科書第1章「ESDとは何か」の発表と討議
- 第6回 教科書第3章「環境教育概念の進化」の発表と討議
- 第7回 教科書第4章「学校環境教育における子どもの人格形成と教師の力量形成」の発表と討議
- 第8回 教科書第5章「地域の教育力としての<ローカルな知>」の発表と討議
- 第9回 教科書第6章「持続可能な観光を築く地域における教育のあり方」の発表と討議
- 第10回 教科書第7章「地域教育力を活かしたESD人材育成」
- 第11回 教科書第8章「サブサハラにおける持続可能な開発と教育」と第9章「地域に根ざした教育とアラスカ先住民の知恵」の発表と討議
- 第12回 都市の中の環境教育とグリーンコンシューマーについての発表と討議～参考図書を参照しながら
- 第13回 行政による環境教育の取り組み～参考図書を参照しながら
- 第14回 世界におけるESDの取り組みについての説明と討議
- 第15回 本授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の発表資料の作成と発表態度：60%、討議への参加度：20%、小課題：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ESDに関する文献は限られているが、事例を多く紹介するので、自らもESDとは何かを把握するようにする。時には、学部生や北九州ESD協議会メンバーと一緒にESD活動を行うこともある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知識だけを身につけるだけでなく、実践方法も身につけてほしい

キーワード /Keywords

ESD 環境教育

政策研究第二特殊講義IA 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、都市内外の環境は大きく変化し、国内の地域間格差は拡大している。

この講義では、特に技術系企業の振興に焦点を当て、地域イノベーションシステムを確立する観点から、地域の産業振興政策はどうあるべきかを探る。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 わが国の産業政策の潮流
- 3回 産業政策と国土政策の関係
- 4回 地方自治体の産業政策の概要
- 5回 地方自治体の中小企業政策
- 6回 産業集積理論の変遷
- 7回 産業クラスター計画
- 8回 産業クラスター計画の課題
- 9回 技術系中小企業の課題
- 10回 技術移転の仕組み
- 11回 技術移転機関のあり方
- 12回 産業支援機関の機能
- 13回 地域の産業支援機関のあり方
- 14回 地域イノベーションシステム
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治・地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えているが、これまではまちづくりを中心とした問題（たとえば、中心市街地の空洞化問題、限界集落・限界コミュニティの問題等）を取り上げていた。今年度は、「無縁社会・孤族の国」と現代日本の公共政策、ソーシャルキャピタルとまちづくりなども考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは基本的には用いないが、履修者と相談のうえ、輪読用の文献は購入してもらうこともある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、参考文献は指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入
- 第2回 教員からの問題提起と議論
- 第3～14回 基本書等の輪読(プレゼンテーションを含む)
- 第15回 まとめおよびレポートの作成についての注意

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度...70% 期末のレポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読に際しては、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義III A 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原浩一・武川正吾編(2002)『福祉国家の変貌』東信堂。
赤川学(2005)『子どもが減って何が悪い!』ちくま新書。
石川准・長瀬修(2005)『障害学への招待』明石書店。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 福祉サービスの市場化①
- 第2回 福祉サービスの市場化②
- 第3回 福祉サービスの市場化③
- 第4回 高齢者福祉
- 第5回 高齢者福祉
- 第6回 高齢者福祉
- 第7回 児童福祉
- 第8回 児童福祉
- 第9回 児童福祉
- 第10回 障害者福祉
- 第11回 障害者福祉
- 第12回 障害者福祉
- 第13回 障害者福祉
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

政策研究第二特殊講義III A 【昼】

キーワード /Keywords

特になし。

政策研究第二特殊講義IVA 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。各自の論文テーマに関連する政策過程論の資料について議論する。

教科書 /Textbooks

- 『社会科学のリサーチ・デザイン』（真淵勝監訳 勁草書房 ¥3,990）
- 『社会学研究法 リアリティの捉え方』（今田高俊編 有斐閣アルマ ¥2,415）
- 『行政学』（真淵勝著 有斐閣 ¥3,780）
- 『公共政策学』（足立幸男 森脇俊雅編著 ミネルヴァ書房 ¥3,360）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『政策科学入門』（宮川公男著 東洋経済新報社 ¥2,940）
- 『現代日本の政策過程』（中野実著 東京大学出版会 ¥2,940）
- 『行政・地方自治』（秋月謙吾著 東京大学出版会 ¥2,730）

その他、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・関心テーマについて報告
- 2回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 3回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 4回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 5回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 6回 『社会学研究法 リアリティの捉え方』
- 7回 『社会学研究法 リアリティの捉え方』
- 8回 『社会学研究法 リアリティの捉え方』
- 6回 『行政学』
- 7回 『行政学』
- 8回 『公共政策学』
- 9回 『公共政策学』
- 10回 『政策科学入門』
- 11回 『政策科学入門』
- 12回 『現代日本の政策過程』
- 13回 『現代日本の政策過程』
- 14回 『行政・地方自治』
- 15回 『行政・地方自治』・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論（80%）、授業準備（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記、教科書、参考書を読み、関連する参考論文についても読むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策研究第二特殊講義IVA 【昼】

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義VIA 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次のもの：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する（諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など）。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

*政策研究特殊講義VI Bとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対しBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (応用)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (応用)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (応用)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (応用)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (応用)
14. 遅れをカバーするための授業
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

政策研究第二特殊講義VIA 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なにごとも、必死になって頑張れば、どうにかなりますので、必死になって頑張ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

政治学第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政治を対象とした論文、著作の輪読を中心とする。それを通じて、日本政治への理解を深めるとともに、研究の方法や進め方について参考となる点を検討する。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2回 問題意識の報告
第3回～第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (50%)、ゼミへの積極的な参加 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

討論に積極的に参加すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、ソーシャルキャピタルについて学ぶ。バットナムによってソーシャルキャピタルが政府・制度のパフォーマンスを向上させるというスキームが提示されたが、行政学的観点からすれば、ソーシャルキャピタルを政府・制度が形成するという構図を検討する余地があると考える。したがって、ソーシャルキャピタル論全体について基本的な事柄をまずは学び、その後で主として制度論者等が唱える政府とソーシャルキャピタルとの関係について、詳しく学んでいくことにする。

教科書 /Textbooks

テキストは論文が中心となる。和洋の論文を読破していく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スコッチポル、T. (2007) 『失われた民主主義』慶応義塾大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入
第2回-6回 ソーシャルキャピタル論 (バットナム関連)
第7回-15回 政府とソーシャルキャピタルとの関係

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業準備は必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで、「現代政治思想」というテーマの下に、受講生との相談の上、佐藤正志・添谷育志編『政治概念のコンテキスト』（早稲田大学出版部）を用いて、立憲主義、自然法、功利主義、ユートピア、社会契約などの基本概念について考察したり、E・バリバー、I・ウォーラスティン『人種・国民・階級』（大村書店）を用いて、人種主義、ナショナリズム、エスニシティなどについて考察してきた。今年度も、受講生の論文作成との関連で具体的なテーマを決めるつもりであるが、受講生の特別の希望がなければ、「現代政治思想」を代表する幾人かの政治思想家を取り上げ、その理論を考察する予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは受講生との相談のうえ決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献の一つとして、藤原保信『20世紀の政治理論』（藤原保信著作集第5巻、新評論、2006年）を挙げておきます。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

特に希望がなければ、以下の内容で進めます。

第1 - 8回 危機の政治思想

C・シュミット

H・ヘラー

H・ケルゼン

また、F・スターン『文化的絶望の政治』（三嶺書房）を用いて、ラガルド、ラングヘーン、メラー・ファン・デン・ブルックについて考察

第9 - 15回 ポスト・モダンの政治思想

H・アレント

J・ハーバーマス

M・フーコー

また、Z・バウマン『政治の発見』（日本経済評論社）を用いて、「公的領域（公共空間）の発見」、「エージェンシーの発見」、「ビジョンの発見」について考察。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取組... 20%

分担発表... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第二特殊講義IB【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

担当者の授業ではESD（持続可能な開発のための教育）を中心として勉強しているが、それを実践に移す場合、様々な技能・技術が必要となってきます。ファシリテーション・スキル、コミュニティ・スキルや調査方法である。本授業ではそのような実践に必要な技術を身につけていきたい。

教科書 /Textbooks

北澤毅・古賀正義編『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社、2008年、2200円
量的調査についてはプリント資料配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

鳥越皓之『環境社会学～生活者の立場から考える』東京大学出版会、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 本授業の目標・計画・内容の説明、割り当て決定
- 第2回 担当教員の研究成果からの調査技術の紹介
- 第3回 教科書第1章と第2章の発表と討議
- 第4回 教科書第3章と第4章の発表と討議
- 第5回 教科書第5章と第6章の発表と討議
- 第6回 教科書第7章と第8章の発表と討議
- 第7回 教科書第9章の発表と討議
- 第8回 教科書第10章と第11章の発表と討議
- 第9回 量的調査について～アンケート調査 調査票の作り方
- 第10回 簡単な実際の調査票作り～作成後、各自で調査
- 第11回 EXCELでのデータ入力とコーディングの説明
- 第12回 EXCELでのヒストグラムとクロス集計の説明
- 第13回 質的調査と量的調査のまとめの討議
- 第14回 ファシリテーション技能の説明
- 第15回 本授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に日常的に取り組む姿勢...30%、ファシリテーション能力・調査能力評価...20%、実践的調査に基づく報告書提出...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

技術的な部分が多く、わかりにくいので、日常的に予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査方法を知っておけば、将来応用できる。貪欲に様々な調査方法を修得してほしい。

キーワード /Keywords

量的調査 質的調査、コミュニティ・スキル、ファシリテーション・スキル

政策研究第二特殊講義IB 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化、知識社会化、少子高齢化、環境問題の深刻化、地方分権の推進など、都市内外の環境は大きく変化し、地域間格差が拡大している。その中で地方都市は、地域の産業を育成し、人口の流出を防ぎ、都市の活性化と持続的な発展に向けて、たゆまぬ努力を続けている。

地方自治体が将来あるべき都市像を掲げて自律的に実現するためには、明確な都市経営理念、組織・人的資源・財源などの適正な配分と効率的な活用が必要となる。

この授業では、地方都市の特性を踏まえ、地域の産業振興を図る視点から、地方自治体の経営の在り方を探る。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営の目的と地方自治体の使命
- 2回 地方分権の動き
- 3回 自治体の組織原理の変化
- 4回 都市を取り巻く外部環境の変化
- 5回 都市経営とトップ・マネジメント
- 6回 人的資源管理の理論と実態
- 7回 地方公務員の雇用環境
- 8回 新しい都市経営の主体
- 9回 市町村合併、道州制
- 10回 科学技術政策
- 11回 産業クラスター計画と自治体の政策
- 12回 中心市街地と商業振興政策
- 13回 コンパクトシティ
- 14回 出身地の直面する課題と原因
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、調査・討議・発表論文 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治・地域産業に関心を持ち、社会経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義IIB 【昼】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的な研究方法を身につけることにある。

本講義の詳細については本講義の履修者との議論によって決定したいと考えている。これまでは、先進自治体の公共政策の検討、人口減少社会とまちづくり、都市の限界コミュニティなどの問題を考察してきた。今年度からは、「無縁社会・孤族の国」と現代日本の公共政策、ソーシャルキャピタルとまちづくりなどもテーマとして取り上げていきたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。輪読の文献については、履修者に購入していただくこともある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献はその都度、受講生に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入
- 第2回～3回 問題提起及び論点の整理
- 第4回～14回 輪読
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度...70% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義IIIB 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政や公共政策の領域を中心に、社会福祉サービスや社会保険、福祉国家を扱った図書・学術論文を講読します。福祉政策や福祉国家の現状と課題を議論するのはもちろんですが、現実の福祉政策や福祉国家に対して「学術研究はどうあるべきなのか?」「どのような論文が良き学術論文なのか?」など、研究の意義や方法論についても受講生と共に議論していきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(2003)『政治学』有斐閣。
橘木俊詔(2005)『消費税15%による年金改革』東洋経済新報社。
清郷伸人(2006)『違憲の医療制度』ごま書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 理論編①自由と平等
- 第2回 理論編②政府の役割
- 第3回 理論編③福祉国家の類型
- 第4回 社会保険編①年金
- 第5回 社会保険編②年金
- 第6回 社会保険編③年金
- 第7回 社会保険編④年金
- 第8回 社会保険編⑤医療
- 第9回 社会保険編⑥医療
- 第10回 社会保険編⑦医療
- 第11回 社会保険編⑧医療
- 第12回 生活保護
- 第14回 生活保護
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策研究第二特殊講義IVB 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の政策過程と政治現象を理解するため、著作を読んで議論し、それに関する理解と知識を広げてもらう。各自の論文テーマに関連する政策過程論の資料について議論する。

教科書 /Textbooks

- 『社会科学のリサーチ・デザイン』（真淵勝監訳 勁草書房 ¥3,990）
- 『社会科学系大学院生のための研究の進め方』（小樽商科大学ビジネス創造センター訳 同文館出版 ¥1,995）
- 『制度』（河野勝著 東京大学出版会 ¥3,150）
- 『新制度論』（土屋光芳訳 芦書房 ¥3,465）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自民党長期政権の政治経済学』（斉藤淳著 勁草書房 ¥3,150）
- 『民営化の取引費用政治学』（南京兌著 慈学社出版 ¥4,200）

その他、論文を、参加者の論文テーマに合わせ、議論する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション・関心テーマについて報告
- 2回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 3回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 4回 『社会科学のリサーチ・デザイン』
- 5回 『社会科学系大学院生のための研究の進め方』
- 6回 『社会科学系大学院生のための研究の進め方』
- 7回 『社会科学系大学院生のための研究の進め方』
- 8回 『制度』
- 6回 『制度』
- 7回 『制度』
- 8回 『新制度論』
- 9回 『新制度論』
- 10回 『新制度論』
- 11回 参考書・その他
- 12回 参考書・その他
- 13回 論文発表
- 14回 論文発表
- 15回 論文発表・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論(80%)、授業準備状況(20%)から総合的に判断する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記、教科書、参考書を読み、関連する参考論文についても読むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策研究第二特殊講義IVB 【昼】

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義VB 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで演習に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告
- 3回 文献輪読
- 4回 文献輪読
- 5回 文献輪読
- 6回 文献輪読
- 7回 文献輪読
- 8回 受講生の研究報告
- 9回 文献輪読
- 10回 文献輪読
- 11回 文献輪読
- 12回 文献輪読
- 13回 文献輪読
- 14回 文献輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特段必要なことはありません。随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえで議論ができればと思っています。研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特殊講義VIB 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。政策研究特殊講義VI Aとの違いは、Aは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してBはAの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例：失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ政策研究特殊講義VI Aで使用するテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、Bを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。また、OECD (www.oecd.org)が提供しているデータや研究結果はたくさん利用しなければならないので、同機構のデータや研究の利用には学期中あるいはその前に慣れること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果を基に下に、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週の具体的なトピックは、第1週の授業の中で相談の上決める。

1. 問題設定、運営計画作成
- 2-7. 報告、考察、批評、提言
- 8-10. 中間報告、考察、批評、提言
- 11-14. 再分析、再考察、最終作業
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)授業参加における積極性や質が40%、(2)調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際に、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、どうにかありますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

政策応用第二特殊講義I 【昼】

担当者名 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治理論と公共哲学の諸理論は、現代の様々な公共政策の決定・評価に対してその理論的基盤を提供している。授業では、公共政策の決定・評価に関わる現代政治理論および公共哲学の諸理論について解説し、また受講者との議論を通じて現代政治理論と公共哲学の視点から、公共政策の決定・評価について理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

足立幸男著『政策と価値 - 現代の政治哲学 -』ミネルヴァ書房(1991年1月)
W. キムリツカ著、訳者代表 千葉真・岡崎晴輝『新版 現代政治理論』日本経済評論社(2005年11月)
佐々木毅・金泰昌編『21世紀公共哲学の地平 - 公共哲学10 -』東京大学出版会(2002年7月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 「科学は公共政策の決定・評価に対して何を為しうるのか」
- 2回 現代政治理論と公共政策(1) 【功利主義】
- 3回 現代政治理論と公共政策(2) 【保守主義】
- 4回 現代政治理論と公共政策(3) 【リベラリズム】
- 5回 現代政治理論と公共政策(4) 【リバタリアニズム】
- 6回 現代政治理論と公共政策(5) 【ロールズの正義論】
- 7回 現代政治理論と公共政策(6) 【コミュニタリアニズム】
- 8回 現代政治理論と公共政策(7) 【シティズンシップ】
- 9回 現代政治理論と公共政策(8) 【多文化主義】
- 10回 「公共哲学とは何か」
- 11回 公共性論(1) 【ユルゲン・ハーバーマス】
- 12回 公共性論(2) 【ハンナ・アレント】
- 13回 公共哲学と公共政策(1) 【現状と課題】
- 14回 公共哲学と公共政策(2) 【事例研究】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治理論・公共哲学・公共政策

政策応用第二特殊講義II 【昼】

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本でも有数の公害被害を経験した北九州市が、公害を克服しただけでなくその経験を活かして世界に誇れる環境モデル都市となったのはなぜか？ 北九州市独自の考え方と成功要因を考える。

公害問題の背景と具体的な公害克服の過程を通じて、市民・企業・行政・大学の果たした役割を理解し、公害問題解決の手法を学ぶ。また、公害を克服したにもかかわらず、市民をはじめとして「公害都市・北九州」のイメージが定着していた北九州市が、どのようにして「環境先進都市」へと脱皮することができたのか、その間にとられた政策や、その基本となる戦略について学ぶ。

環境国際協力の実績を通じて、国際社会における日本への期待と北九州市の貢献を理解するとともに、地球環境問題への取り組みや環境ODAの意義を考える。また、廃棄物行政の経緯とエコタウンへの発展の過程を通じて、資源循環型社会づくりにおける市民・企業・行政・大学の新しい役割を考える。

これらに基づき、環境モデル都市の構築とアジアへの普及についてどのようなことができるか、何をすべきかを考える。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州市の環境政策の概要
- 2回 公害問題の発生と対策
- 3回 スモッグ警報発令と全市的協力体制の確立
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立
- 5回 大気汚染とその対策
- 6回 水質汚濁とその対策
- 7回 公害の克服とその評価
- 8回 環境国際協力とODA
- 9回 国際社会からの評価
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウンと3R
- 12回 PCB処理とリスクコミュニケーション
- 13回 環境教育と市民活動
- 14回 地球環境問題への取り組み
- 15回 低炭素社会づくりと環境モデル都市への道

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策応用第二特殊講義Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

20世紀は企業や政府が社会を牽引してきましたが、21世紀は自己責任と市民社会の時代です。社会サービス・財や雇用を市民自ら作り出すNPOが活躍する社会について講師の実践体験を交えて講義します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

市村浩一郎『日本のNPOはなぜ不幸なのか? - 「社会をよくなる」が報われない構造を解く』(ダイヤモンド社、2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：NPOのミッション
- 2回：日本におけるNPO法の成立
- 3回：日本のNPOの概況
- 4回：NPOの国際比較
- 5回：福岡県のNPOの調べ方
- 6回：福岡県、北九州市、福岡市のNPO概況
- 7回：指定管理者制度とNPO
- 8回：社会サービスとNPO
- 9回：[NPOと政府、企業
- 10回：社会起業家
- 11回：社会的使命と経営戦略
- 12回：NPOでのリーダーシップ]と組織運営の実際
- 13回：NPOのマネジメント(資金、計画、評価)の実際
- 14回：NPOの事業プラン]の作成
- 15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国内外における最近のNGO.NPOの動向を新聞、雑誌などで読み込んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民、コミュニティ、社会起業家

政策応用第二特殊講義Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大久保 裕文 / 北方キャンパス 非常勤講師, 間仁田 幸雄 / Yukio Manita / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 間仁田 >

- ・ 従来都市政策あるいは地域政策は、行政の問題として論じられることが多かった。
- ・ しかし、現在はNPOの時代、公民パートナーシップの時代である。NPOのまちづくりへの参画が進み、中心市街地活性化におけるTMO（まちづくり機関）の活動が注目を集めている。他方、企業には「企業市民」としての社会的責任や地域社会への貢献が求められている。さらに地域産業の活性化も必要となっている。
- ・ こうした状況を踏まえて、都市あるいは地域社会の再生について、具体的な事例を取り上げて検証する。

< 大久保 >

- ・ 都市化社会の今日、地域経済の見直しや生活環境の再編整備は、都市政策上の主要課題となっている。
- ・ この講義ではより良い都市環境のあり方を学ぶため、都市問題の解決策として、都市計画制度や市街地整備の事例を取り上げ、考察を進める。

教科書 /Textbooks

< 間仁田 >

とくに指定しません。毎回の講義の際にレジュメおよび必要な資料を配布します。

< 大久保 >

講師作成のテキストを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

< 間仁田 >

間仁田幸雄『共進化の時代』日本経済評論社

その他は、講義のなかで逐次紹介します。

< 大久保 >

講義の初めに紹介を行います。

政策応用第二特殊講義Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 間仁田 >

第1回～第2回【企業の地域開発プロジェクト】

・企業の地域開発プロジェクトと地域社会の活性化との関係について、北九州市のスペースワールドなどの具体的な事例を取り上げて、民間主導による地域開発プロジェクトの役割や課題を考察します。

・あわせてデイズニードの事例を取り上げ、テーマパーク事業の特性を明かにし、これを比較対象として事業評価を行うこととしました。

第3回～第4回【企業の地域社会への貢献】

・企業の「企業市民」としての社会的責任の遂行と地域社会への貢献のあり方や課題について、アメリカにおける事例も含めて検証します。あわせて最近の企業における統治機構の変化と地域社会との関係を考察します。

第5回～第7回【地域産業の活性化】

・地域活性化は福祉や教育などの充実ばかりではなく、地域産業の活性化も欠かすことはできない。そのため、中小企業の経営革新の支援も必要となっている。こうした地域産業の活性化の進め方と課題について考察します。

・あわせて、ビジネス支援型NPOの紹介を行い、そこにみられる問題点を探ります。

第8回～第10回【中心市街地の活性化と市民の役割】

・市民主導型まちづくりの先駆的事例として湯布院のまちづくりを取り上げて、その歴史を検証し、成功と失敗の要因を分析します。

・中心市街地の衰退要因を考察した上で、まちづくり3法改正のなかでの中心市街地の活性化問題を取り上げ、TMO(まちづくり機関)の役割や課題について、岐阜県大垣市、埼玉県春日部市の具体的な事例を取上げ考察します。

・あわせて中心市街地活性化のサクセス・ストーリーとして、サンタモニカと金沢市堅町商店街の事例を紹介し、成功要因を探ります。

< 大久保 >

1回【市町村の基本構想】

平成の大合併によってそれまでの市町村数は、半分近くになった。市町村合併への流れと意義及び、地方自治法関連の市町村の基本構想の事例を取り上げる。

2回【都市のマスタープラン】

都市の環境整備を進める上で様々なマスタープランが存在する。都市計画法関連の都市のマスタープランの枠組みと役割について具体的な事例都市を取り上げる。

3回【市街地の整備】

市街地の環境整備は、面的な広がりや有する市街地構造の再編や土地利用の改編等を対象とした都市の計画技術によって行われる。今日的な要請や制度等の活用の具体的な事例を取り上げる。

4回【都市景観】

平成17年施行の都市景観法によって都市の景観が広く論議されるようになった。昭和50年代からの都市の景観論を学習しながら、都市景観整備事例を取り上げる。

5回【まちづくり】

地方の時代が標榜されて既に30年が経った。地域住民の主体性によるまちづくり活動は、様々な参加形態が見られている。まちづくりの系譜を踏まえ、環境整備の面から都市の今後のあり方を学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

< 間仁田 >

複数のテーマのうちから選択して、小論文を作成する。A4用紙に、写真や図表なども含めて8～10枚とし、1ページは40字×40行とします。

< 大久保 >

小論文の提出とします。論文は、目的とまとめを明確に書くこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

< 間仁田 >

シラバスを参考にして、事前に関係文献などで予習をしておくことが望ましいと考えています。

< 大久保 >

講義のテーマについて下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

< 間仁田 >

本講義は集中講義ですから、欠席すると講義についていくのが難しくなります。極力欠席しないように努力してください。

< 大久保 >

講義は段階的に進めるため、欠席をしないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

< 間仁田 >

講義を聴くだけの消極的な姿勢ではなく、積極的にディスカッションに参加して、そうしたなかからさまざまなことを学んでいくようにしてください。

< 大久保 >

意見の交換をしながら進めたいと考えています。

キーワード /Keywords

政策応用第二特殊講義Ⅳ 【昼】

キーワード /Keywords

< 間仁田 >

多様性に対応できる柔軟性と考える癖を期待しています。

< 大久保 >

過去に学び、現在を考え、未来を志向。

商法第二特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の論文執筆に資する文献等の紹介・輪読などを通して、修士論文作成上の助言・指導を行います。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は一応の目安であり、受講者との協議により適宜変更されることがあります。

第1回 ガイダンス 受講者と相談の上でゼミ運営方法・ゼミの実施内容につき協議します。

第2回～第5回 文献・判例の分析検討(1)～(4)

第6回～第10回 文献・判例の分析検討(5)～(9)

第11回～第14回 文献・判例の分析検討(10)～(13)

第15回 研究報告とまとめ

第16回～第20回 文献・判例の分析検討(14)～(18)

第21回～第25回 文献・判例の分析検討(19)～(23)

第21回～第25回 文献・判例の分析検討(19)～(23)

第26回～第29回 文献・判例の分析検討(24)～(27)

第30回 研究報告とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・研究報告書の内容等を含む、ゼミへの参加度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習はもちろん、受講者各自の自発的な調査・研究活動が求められます。詳細については、第1回のゼミのみならず、随時、お知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法第二特別研究【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

修士論文、特定課題研究作成の準備をすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究テーマ等につき、相談しつつ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび平常点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法総論」「刑法各論」の復習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱意とヤル気と忍耐力が肝要。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法第二特別研究【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

院生の論文指導。

教科書 /Textbooks

院生の論文テーマに関連した文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指定したいと思います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文指導
- 2回 論文指導
- 3回 論文指導
- 4回 論文指導
- 5回 論文指導
- 6回 論文指導
- 7回 論文指導
- 8回 論文指導
- 9回 論文指導
- 10回 論文指導
- 11回 論文指導
- 12回 論文指導
- 13回 論文指導
- 14回 論文指導
- 15回 論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の成果・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定の文献を事前に検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学第二特別研究 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ 授業形態 演習 ア) クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学生と相談の上、決めます。
- 2回～29回 以下同じ。
- 30回 まとめ(レポート提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文では各自の研究テーマに関する徹底した「文献調査」、「先行研究の検討」、「実証研究のリサーチ・デザイン」をまとめるように努めましょう。

キーワード /Keywords

国際法第二特別研究 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文・特定課題研究等の作成を間接的に支援することを目的とします。
院生の中には、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、国際法上の議論に触れ、その理解を深める必要を感じている者が少なからずいることと思われます。本講義では、そのような事情を有する者に対し、その機会を提供しようということを考えています。
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていただくに構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の専門領域とは異なっても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れないでください。

教科書 /Textbooks

受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。

履修上の注意 /Remarks

なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。
まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した(させられた)という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えてくれています。
院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード /Keywords

【修士論文】【特定課題研究】【指導】【国際法】

日本法制史第二特別研究 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者に研究テーマに応じて適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史第二特別研究 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：現代政治思想(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)
特に希望がなければ、論文指導を中心に行なう。
受講生の研究テーマを深化,発展させることを心がけ、修士論文(研究課題論文)の完成を目指す、

教科書 /Textbooks

受講生の希望で、論文指導でない場合には、受講生との相談でテキストを決めます。
昨年度は、受講生の研究テーマがヘルマン・ヘラー、カール・シュミット、ハンス・ケルゼンなどドイツの政治思想に関するものであったので、ヘラーとシュミットに関する著書、論文を講読した。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文指導の場合には、参考文献一覧を一緒に作成します。
テキストを使用する場合には、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文指導の場合には
受講者の研究テーマの決定、研究テーマの参考文献一覧の作成、参考文献に関する発表、論文の中間発表の順に進める。
第1～2回で、研究テーマの決定、論文の構成について検討する。
第3～4回で、参考文献および資料収集について検討する。
第5回では、序論について検討する。
第6回以降は、毎回、各章あるいは各節ごとに順次検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジユメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究第二特別研究【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学院を修了するにあたり、修士論文を書く必要があります。本授業では、指導教員と論文執筆者本人双方がお互いに納得のいく修士論文を完成することを目的としています。そのために、意欲的な研究姿勢が必要になってきます。

教科書 /Textbooks

その都度レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○三宅博之『開発途上国の都市環境』明石書店、2008年、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 本授業の説明
- 第2回 論文の書き方に関する詳細な説明
- 第3回 担当教員の論文を参考にしての論文作成の要領の説明
- 第4回 受講生の論文構想の発表：ねらいと構成
- 第5回 調査法の解説～全般
- 第6回 質的調査法の解説～その1
- 第7回 質的調査法の解説～その2
- 第8回 量的調査法の解説～その1
- 第9回 量的調査法の解説～その2
- 第10回 アンケート調査票の作成について
- 第11回 調査を通してのデータ入手とその分析
- 第12回 受講生の論文構想の再確認：調査項目を入れて
- 第13回 受講生の論文作成途中発表～その1
- 第14回 受講生の論文作成途中発表～その2
- 第15回 受講生の論文作成途中発表～その3
- 第16回 受講生の論文作成途中発表～その4
- 第17回 受講生の論文作成途中発表～その5
- 第18回 受講生の論文作成途中発表～その6
- 第19回 受講生の論文作成途中発表～その7
- 第20回 受講生の論文作成途中発表～その8
- 第21回 受講生の論文作成途中発表～その9
- 第22回 受講生の論文作成途中発表～その10
- 第23回 受講生の論文作成途中発表～その11
- 第24回 受講生の論文作成途中発表～その12
- 第25回 受講生の論文作成途中発表～その13
- 第26回 受講生の論文作成途中発表～その14
- 第27回 受講生の論文作成途中発表～その15
- 第28回 受講生の論文最終発表～その1
- 第29回 受講生の論文最終発表～その2
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表方法・姿勢...20% 論文の内容...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文の作成にあたってはできるだけ現場から学ぶような要素を入れること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文を書くのは非常に大変である。担当教員も修士論文完成には数多くの苦難にぶちあたった。ぜひとも頑張って完成させてほしい。

地域研究第二特別研究【昼】

キーワード /Keywords

修士論文、質的調査法、量的調査法、アンケート調査法

政策研究第二特別研究【昼】

担当者名 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今後の都市政策の主要な地位を占める産業振興政策を中心とした「まちづくり政策」について、論文作成を支援する。

具体的なテーマは、受講生の研究内容に応じて決定する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な都度、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究進捗状況に合わせて、その都度決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の評価 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究内容に関連するデータの収集をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特別研究【昼】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域公共政策、NPO、市民参加等に関する論文指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入
第2回 論文の書き方について
第3回～14回 論文指導
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、次に発表する部分のレジユメの作成等を行って講義にのぞんでいただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策研究第二特別研究【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文作成者の分野が判明するまでなし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即始める。それがある程度終わった後研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の内容・スケジュールに書かれていることを実行する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、どうにかありますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

行政法第二特別研究 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「特別研究」は修士学位論文を作成するための研究指導である。
受講者の関心領域に応じて、論文作成に必要な文献・資料等を選び、順次検討するとともに、論文の作成に向けて必要な指導を行なうことを内容とする。

教科書 /Textbooks

テキストはあらかじめ指定しない。
必要な文献・資料等については、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は、予定する修士論文のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス
- 2 回以降 関心領域の確認、基礎的な文献の選択、文献についての解説、その他の文献・資料等の検討、テーマの確定、論文の構成、その他論文作成過程における指導等を順次行う。
(作業の進捗状況については、適宜報告を求める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一特別研究」と「第二特別研究」は指導を受ける院生につきセットとなっており、2年間で修士論文の作成を目指して指導を行うものである。
初年度については、授業への日常的取り組みの状況と報告とを各50%ずつ評価する。
次年度については、論文の評価を100%とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示された文献等については事前に読んでおくこと。
報告を指示された場合にはなるべく準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「第一特別研究」と「第二特別研究」はセットになっているので、両方とも履修する必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法第二特別研究【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導をすることを目的としています。研究計画を策定し、進捗状況を確認しながら指導をするつもりです。必要があれば、各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法またはフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。

教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献についてはコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究テーマ、研究の進捗状況の確認、研究計画策定
- 2回～7回 研究計画に沿った研究指導
- 8回 研究の進捗状況の確認
- 9回～14回 研究計画に沿った研究指導
- 15回 まとめ-成果の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。研究計画に沿って、自ら進んで研究に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学第二特別研究 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法哲学の修士論文もしくは特定課題研究の論文執筆を指導し、その完成を目指す。具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定する。

教科書 /Textbooks

テキストや参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容の詳細は、受講生と相談の上決定する。研究テーマにあった参考文献の報告など、受講生による報告が中心となる。研究が進んだ段階で、論文構想の中間発表や直前発表なども適宜行ってもらう。

- 第1回 はじめに
- 第2回 研究テーマについての概要報告
- 第3回 研究テーマについての報告と議論①
- 第4回 研究テーマについての報告と議論②
- 第5回 研究テーマについての報告と議論③
- 第6回 研究テーマについての報告と議論④
- 第7回 研究テーマについての報告と議論⑤
- 第8回 研究テーマについての報告と議論⑥
- 第9回 研究テーマについての報告と議論⑦
- 第10回 研究テーマについての報告と議論⑧
- 第11回 研究テーマについての報告と議論⑨
- 第12回 研究テーマについての報告と議論⑩
- 第13回 研究テーマについての報告と議論⑪
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学 研究指導

私法領域第二特別研究【昼】

担当者名
/Instructor

小野 憲昭 他

履修年次 1年次
/Year単位 4単位
/Credits学期 1・2学期(ベ
/Semester ア)授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、「社会人コース」、「アドバンスコース」の院生を対象に修士論文または特定課題研究の完成に向けた研究指導を行うことを目的として開講している科目です。指導の内容は、指導教員と院生との相談によって決定します。詳細は、指導教員に問い合わせてください。

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-指導教員、指導内容相談
- 2回～3回 研究指導計画作成
- 4回～14回 指導計画に従った研究指導実施
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

指導教員によって異なります。担当指導教員に問い合わせてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当指導教員に問い合わせてください。

履修上の注意 /Remarks

担当指導教員に問い合わせてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回のガイダンスの実施日程は、別途御案内します。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

公法領域第二特別研究【昼】

担当者名
/Instructor

岡本 博志 他

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

4単位

学期
/Semester

1・2学期(バ
ア)

授業形態
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「公法領域第一特別研究」は、「社会人コース」および「アドバンスコース」の学生が修士論文または特定課題研究成果を完成させるための指導を行うことを目的とする。
受講者の関心領域に応じて、論文または研究成果のテーマを選び、論文等の完成に必要な文献・資料等を順次検討するとともに、論文等の完成に向けて必要な指導を行なうことを内容とする。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。
必要な文献等は適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文等のテーマに応じて、必要な参考文献等を適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回目 ガイダンス
- 2回目以降 関心領域の確認、基礎的な文献の選択、文献の内容についての解説、その他の文献の収集と検討、テーマの確定、論文等の構成の検討、論文等の作成過程における指導等を順次行う。
(進捗状況については適宜報告を求める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

「公法領域第一特別研究」と「公法領域第二特別研究」は各院生につきセットで受講すべき科目である。
初年度については、日常的な授業への取り組みと報告とを各50%ずつ評価する。
次年度については、修士論文または特定課題研究成果の評価を100%とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示した文献等については事前によく読んでおくこと。
報告を指示した場合には然るべく準備して報告を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「公法領域第一特別研究」と「公法領域第二特別研究」はセットになっていることに留意すべきである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策第二特別研究【昼】

担当者名 中道 壽一 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治(思想)と地域政策(受講生の研究テーマとの関連で変更できる)
特に希望がなければ、論文指導を中心に行なう。
受講生の研究テーマの深化・発展を心がけ、論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

論文指導でない場合には、受講生との相談でテキストを決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献一覧を受講生と一緒に作成します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文指導の場合には
受講者の研究テーマの決定、研究テーマの参考文献一覧の作成、参考文献に関する発表、論文の中間発表の順に進める。
第1～2回で、研究テーマの決定、論文の構成について検討する。
第3～4回で、参考文献および資料収集について検討する。
第5回では、序論について検討する。
第6回以降は、毎回、各章あるいは各節ごとに順次検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表のためのレジュメの作成

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政策第二特別研究【昼】

担当者名
/Instructor

三宅 博之 他

履修年次 1年次
/Year単位 4単位
/Credits学期 1・2学期(バ
/Semester ア)授業形態 演習
/Class Formatクラス 1年
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本はグローバル化の真っただ中にあり、生起している国内問題はそのグローバル化と大いに関係している。受講生は自らが論文として追求したい課題をグローバル化と関連付け、論文を作成する。本授業は、受講生がそのような修士論文を完成するにあたっての指導を行うものである。学部で学習した現場での調査方法を再確認しながら、質の高い論文を完成してもらいたい。1年生の場合は、修士論文の中間論文と考えてもらってよい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを多く配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北澤毅・古賀正義編『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社、2008年、2200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 本授業を始めるにあたって～修士論文とは？
- 第2回 担当教員の論文を参考として「論文」に関する詳細説明
- 第3回 受講生の論文構想の一次発表
- 第4回 調査方法(文献、観察、聞き取り・面接、アンケート)の説明
- 第5回 質的調査法学習～その1
- 第6回 質的調査法学習～その2
- 第7回 質的調査法学習～その3
- 第8回 量的調査法学習～その1(アンケート調査票の作成)
- 第9回 量的調査法学習～その2(データ入力とコーディング: Excel用)
- 第10回 量的調査法～その3(ヒストグラム・クロス集計・相関関係など: Excel用)
- 第11回 受講生の修士論文のねらい・構成の発表
- 第12回 受講生の修士論文の中間発表～その1
- 第13回 受講生の修士論文の中間発表～その2
- 第14回 受講生の修士論文の中間発表～その3
- 第15回 受講生の修士論文の中間発表～その4
- 第16回 受講生の修士論文の中間発表～その5
- 第17回 受講生の修士論文の中間発表～その6
- 第18回 受講生の修士論文の中間発表～その7
- 第19回 受講生の修士論文の中間発表～その8
- 第20回 受講生の修士論文の中間発表～その9
- 第21回 受講生の修士論文の中間発表～その10
- 第22回 受講生の修士論文の中間発表～その11
- 第23回 受講生の修士論文の中間発表～その12
- 第24回 受講生の修士論文の中間発表～その13
- 第25回 受講生の修士論文の中間発表～その12
- 第26回 受講生の修士論文の中間発表～その13
- 第27回 受講生の修士論文の最終発表と修正～その1
- 第28回 受講生の修士論文の最終発表と修正～その2
- 第29回 受講生の修士論文の最終発表と修正～その3
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

調査の概要・成果評価...20%、発表技術・姿勢...20%、修士論文の内容...60点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、現場を見据えた(現場に立脚し、踏まえた)調査方法の採用に対する準備は万全にしておく。大学院修了後に海外に職場を求めているのであれば、できるだけ、同国・地域の言葉を修得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎日、少しながらもコツコツと本を読むように習慣をつけること。

国際政策第二特別研究【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際政策が対象なので、海外のことをできるだけ、取り上げてほしい。

キーワード /Keywords

質的調査、量的調査、アンケート、グローバリゼーション、修士論文